トピックス

新しいドクターカーの運行を開始します

平成27年12月24日から、従来のドクターカー（救急車タイプ）に加え、新しいドクターカー（ラピッドカータイプ）の運行がはじまりました。

当院のドクターカーは、平成26年4月1日から運行を開始しており、平日の8時30分から17時15分が運行時間です。また、ドクターカーの医師が救急現場や救急車内で行った医療行為については、保険診療の対象となり費用の一部が患者さまの負担となります。

お車の運転中に緊急走行中のドクターカーに遭遇されました際は、速やかな停車にご協力をお願いいたします。

ドクターカーは消防からの要請を受け出動するもので、市民が直接要請することはできません。

クリスマスイベントを開催！

がんセンター開設当初から定期的に開催している「ふれあいコンサート」。12月16日に開催した第91回は、「クリスマスコンサート」と題し、季節に合わせた曲や懐かしの曲をお届けしました。ボランティア・ギターアンサンブル「アルペジオ」によるギター演奏や、院内コーラスサークルと笠間地域コーラスグループ「華」によるコーラス隊の歌声にあわせて、会場の皆さんと一緒におなじみのクリスマスソングを歌うことができました。

また、12月10日には「オカリーナアンサンブル轉（てん）」による演奏会も行われました。このオカリナ演奏は10年以上前から行われており、定期的に各病棟へボランティアで来ていただいています。今回も「北の国から」や「きよしこの夜」など全10曲を楽しみました。心にしみるオカリナの音色は病棟をいやしの空間にしてくれます。毎回、素敵な演奏をありがとうございます。

中央ホール工事にあたってご不便おかけいたしました。

当院中央ホールにおきまして、平成27年９月中旬より施行しておりました改修工事が無事終了しました。今回の工事では、天井の耐震工事及び改修工事を行いました。着工中の約３ヶ月間、皆様には、受付時・会計時、またエレベーターの使用制限等、ご不便とご迷惑をおかけいたしました。また、ご理解とご協力ありがとうございました。

かさま市民運動会に参加しました。

平成27年10月18日に笠間市合併10周年を記念した「かさま市民運動会」が開催され、「県立中央病院チーム」として職場対抗リレーに参加しました。永井秀雄名誉院長よりご紹介があり、今回の参加の機会をいただきました。

男性３人×200mと女性２人×100mのリレーで、メンバーは走者順に、石橋直樹（初期研修医）、海老澤彩加（看護師）、柳橋進（外科後期研修医）、圷あずさ（看護師）、高尾幹也（外科後期研修医）の５名で臨みました。当日は天候もよく、多くの方が参加されており大変賑わっておりました。特別編成のチームにしては、予選１組３位となかなか良いタイムで走ることができたと感じましたが、惜しくも決勝進出は叶いませんでした。日頃の運動不足を痛感させられましたが、楽しい経験となりました。

当院では、今後も各種院内活動を通じて職員の親睦を深め、職場・職種をこえた連携、院内の活性化につなげていきたいと思っています。　（文責：外科後期研修医　高尾幹也）

第20回市民公開講座　参加者募集

当院では、平成12年３月から、地域住民のみなさまを対象とした公開講座と医療相談を行っており、今年で20回目を迎えます。

今回は、「尿路感染症、結核、C型肝炎」をテーマに当院医師による講演を行います。また、専門医による医療相談や看護師による看護相談、薬剤師による薬剤相談なども行います。お気軽にご相談下さい。

※講演に参加する場合は、事前に「参加申込書」をご提出下さい。

日　時　平成28年２月27日(土)
医療相談：12:30～13:30
講　　演：13:30～15:15

場　所　当院玄関外来ホール

問合せ・参加申し込み
茨城県立中央病院　総務課
電話　0296(77)1121　内線2022
FAX　0296(77)2886

看護師募集
看護補助者募集
（ヘルパー2級保有者）

現在、嘱託職員を募集しています。

夜勤も含め、勤務部署・勤務日等は相談に応じます。
お気軽に看護局までお問い合わせください。

あなたの「働きたい」をサポートします！

＊質の高い看護と魅力ある職場づくりに努力しています。
＊教育、研修、安全管理体制をしっかり整え、スタッフ全員で仕事と家庭の両立を支援します。

茨城県病院局　☎029-301-6516
中央病院看護局　☎0296-77-1121（代表）
担当：海藤

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター
〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121　ホームページ http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/

編集・発行／茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター
茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター
〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121　ホームページ http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/
2016年 冬号 Vol.21

ほっとタイムズ

12月15日にPCU（緩和ケア病棟）で開催された「クリスマスコンサート」の様子。

病気を知ろうQ&A

寒い冬場は要注意！「急性心筋梗塞」

病院長メッセージ

ー第4回ー

「病院の役割分担と提供する医療」

茨城県立中央病院
茨城県地域がんセンター
病院長 **吉川裕之**

「2025年問題」という言葉は最近の報道でもよく耳にするようになりました。2025年に、いわゆる団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となることから、医療、介護、福祉の需要が爆発的に増えるのです。少子化は更に深刻化し、財政はもちろん医療の提供においても危機的状況へ向かう可能性があります。これら多くの問題を回避するため、様々な努力が少しずつ始まっています。

各都道府県では、より地域の実情に密着した医療提供の体制をつくるべく「地域医療構想」の検討が始まっています。病院は、病棟ごとに提供する機能によって急性期、回復期、慢性期などに分けられます。日本では外国に比べ、急性期病床が多く、人口あたりの数は世界一です。また、急性期病床の入院期間は20年間で半減したものの、それでも欧米の2ー3倍と長くなっています。これには、急性期、回復期、慢性期を、ほとんど区別せずに入院診療を行ってきたという日本の歴史もあります。そして、この医療提供体制が世界一の平均寿命に貢献した可能性もあります。このように急性期に偏った現状の病床配置を見直し、回復期、慢性期および在宅医療へ再配分する「病床機能の分化」を2025年までに進めることを厚生労働省は求めています。

区　分	内　　容
高度急性期	急性期の患者に対し,状態の早期安定化に向けて,診療密度が特に高い医療を提供する
急性期	急性期の患者に対し,状態の早期安定化に向けて,医療を提供する
回復期	・急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する ・特に,急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頚部骨折等の患者に対し,日常生活動作の向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する
慢性期	・長期にわたり療養が必要な患者へ医療を提供する ・長期にわたり療養が必要な重度の障害者（重度の意識障害を含む）,筋ジストロフィー患者又は難病患者等へ医療を提供する

茨城県では、約5,000床の急性期病床を削減し、リハビリテーションの中心となる回復期病床を増やすことが期待されています。それと同時に、回復期病床での質の高いリハビリテーションを推進する必要があります。

このような転換期の中で、大病院の中にも急性期病床の一部を回復期病床に切り替える病院が出てきています。当院の場合、先進医療を行い、より一層急性期に特化した病院をめざすことが求められています。

例えば、当院への短期間の急性期入院の後（緊急入院や手術入院の後など）、自宅への退院が難しい場合には、リハビリテーションなどのため、連携した回復期の病院に転院していただくことも考えられます。また、自宅へ退院する場合でも、症状が落ち着いた後も治療を継続していただくため、元の診療所や病院へ逆紹介する場合もあります。このため、当院では連携施設との関係を強め、連携先でも当院の電子カルテの閲覧を可能にするなど、連続した医療・一体化した医療を進めています。

このように、急性期、回復期、慢性期と、病院を移っていくシステムは欧米などで取り入れられており、連携どころか経営統合（ホールディング・カンパニー）までしている例もあります。日本での改革は過渡期であるために患者さまやご家族の皆様にはご面倒やご心配をおかけすることもあるかと思いますが、従来よりも良い医療になるよう職員一同、より一層努力して参ります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

病気を知ろう Q&A

寒い冬場は要注意！「急性心筋梗塞」

Q：最近「急性心筋梗塞」とよく耳にしますが、具体的にどのような病気ですか？

心臓は主に全身に血液を送り出すポンプの働きをしています。この心臓自体へと血液を流すための心臓の動脈＝冠動脈が突然詰まる（閉塞してしまう）病気です。

Q：寒い季節は急性心筋梗塞が起こりやすくなるというのは本当ですか？

季節によってそれほど極端な差はありませんが、夏よりも20％ほど冬に多く発症するとの報告があります。やはり気温変化の影響が大きく、血圧や身体活動度の低下、ひいてはコレステロールや中性脂肪の値が、季節によって大きく変動するとされています。また、高齢者ほど寒冷期の影響を受けやすいともいわれています。

Q：急性心筋梗塞の起きやすい状況や時間帯などはありますか？

平均気温が10度以下の雨や雪が伴う低気圧の日に多いといった報告があります。しかしこちらも極端に発症しやすい状況や時間帯というものはないと考えられます。

なんらかのストレスがかかって血圧が上昇しやすいような時（興奮したり、瞬間的な強い運動時など）に発症しやすいようです。

Q：急性心筋梗塞になるとどのような兆候が現れますか？

残念ながら予兆（前ぶれ）がある方は半数に過ぎず、急性心筋梗塞になる半数の方は、ある時突然発症します。特徴的な症状は、胸全体が締め付けられるような、あるいは石かなにかを押しつけられているような胸部の不快感です。医学的には胸痛と言いますが、痛みと言うよりは絞扼感（こうやくかん）・圧迫感という感じです。これが15分以上続くようなら急性心筋梗塞の可能性があります。このような胸部の症状が肩やあごに広がる、あるいは冷汗や吐き気・嘔吐を伴うこともよくみられます。

Q：急性心筋梗塞を防ぐにはどのようなことに気をつければよいでしょうか？

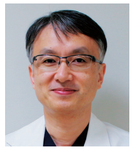
まずなによりも禁煙です。食事では減塩を心がけ、カロリーの摂りすぎを避け肥満に注意しましょう。適度な有酸素運動（歩行などゆっくりした運動）を、できれば毎日、少なくとも週に3回以上を心がけましょう。また、1回に30分以上止まらないで続けて行うとよいとされています。

循環器内科部長
筑波大学附属病院茨城県地域臨床教育センター
准教授
武安　法之 医師
が答えました

プロフィール

生まれは奈良なのですが、とっくに茨城の方が長くなりました。ただ自宅では今も関西弁で話しておりまして、茨城弁とのバイリンガルです、ハイ。

ドクター紹介



呼吸器外科　部長
清嶋　護之

故郷の熊本から茨城に来て20年近くがたちました。当初は茨城の夏の涼しさに感動していましたが、最近は差が無くなっている感じがします。

自然が豊か、農業が盛んで食べ物がおいしいなど両県には似たところも多くありますが、医療環境は大きく違うように思います。人口10万人対の医師数は熊本287、茨城178と大きな差があります。熊本市は県全体の4割を超える人口を有し、医学部や専門センターが集中していますが、茨城県は県庁と医学部の所在地が異なり、また県の広域に人口が分散しており、医療のために長距離移動を必要とすることも多いようです。

私の専門領域にも様々な問題がありますが、少しでも茨城の皆様の力になることができればと考えています。

呼吸器外科　部長
鈴木　久史

呼吸器外科の鈴木久史と申します。水戸出身で筑波大学卒です。県立中央病院には震災直前の2011年3月1日に赴任し、当院での勤務は5年目になります。

当科では肺の病気に対する手術を行っておりますが、中でも肺癌が主な対象疾患です。肺癌は年々増えており、2015年の当科での手術約240例のうち肺癌に対する手術は150例を超えます。肺癌は若い人から高齢の方まで幅広い年齢層で発生しますが、なかなか症状に現れにくい病気です。進行して症状が出る前に早期発見できるよう、健診等の受診をおすすめいたします。特に喫煙者は非喫煙者に比べて4～6倍も肺癌になりやすいと言われ注意が必要です。

当科では最先端のロボット手術の実施に向けて準備を進めております。肺癌やその他呼吸器疾患に関してご質問等ありましたらお気軽にご相談ください。

各科各部紹介　第7回　臨床検査科

「縁の下の力持ちで患者さまの診療をサポートいたします」

臨床検査科では現在、臨床検査管理医1名、臨床検査技師36名、検査助手3名が在籍し、多くの分野に分かれて検査を行っています。

＜業務内容＞

- 検体検査（血液、尿などを分析します）
- 細菌検査（細菌・ウイルスを調べます）
- 病理検査（組織・細胞を調べます）
- 輸血検査（安全に輸血できるか調べます）
- 生理機能検査（心電図や超音波検査など直接患者さまを検査します）
- 採血業務（中央処置室で外来患者さまの採血を行います）

実際に患者さまとお会いする機会は多くはありませんが、これらの業務を通し正確なデータを迅速に臨床の現場に提供することで、患者さまの病気の診断・治療・経過観察等の診療のサポートができるよう努めています。

（文責：臨床検査科　橋本多恵）